

令和7年度 兵庫県立上野ヶ原特別支援学校 学校評価

評価(集計平均) A…4～3.21 B…3.2～2.41 C…2.4～1.61 D…1.6～0

教育方針	一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、丁寧な情報共有の上、自立と社会参加を見据えたキャリア形成に向け、きめ細かく適切な教育的支援を行う。				
学校教育目標	1 一人一人の児童生徒の持てる力を引き出す 2 社会的自立と自己実現を目指す 3 すこやかな体と豊かな心を育てる	学校経営の重点	(1)互いを認め合い、安心して学び育ちあうことができる教育環境づくり (2)適切なアセスメントとICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実 (3)自己発見、自己理解、自己選択を目指したキャリア教育と進路指導の充実	本年度学校経営の重点項目	ア 個に応じた教科指導及び生徒指導(道徳教育・人権教育・自立活動・特別教育活動を含む) イ 訪問教育の充実 ウ 健康管理に関する指導 エ キャリア教育・就労支援の推進 オ ICTを活用した教育の推進 カ 防災教育の推進 キ 「心のバリアフリー」(交流及び共同学習)の推進 ク 研究推進 ケ 特別支援教育のセンター的機能(地域支援) コ 保護者との連携 サ 福祉・労働等 関係機関との連携 シ 情報発信と理解促進 ス 安心安全な教育環境の整備

番号	学校経営の重点	学校経営の重点項目	関係する部署	選定した重点項目	教職員評価項目	教職員評価	教職員集計平均	保護者評価項目	保護者評価	保護者集計平均	総括(成果及び課題と改善策)	学校関係者評価
1	(1)互いを認め合い安心して学び育ちあうことができる教育環境作り (2)適切なアセスメントとICTを活用した「個別最適な学び」と「共同的な学び」の充実 (3)自己発見、自己理解、自己選択を目指したキャリア教育と進路指導の充実	ア 個に応じた教科指導及び生徒指導(道徳教育・人権教育・自立活動・特別教育活動を含む) イ 訪問教育の充実 ウ 健康管理に関する指導 エ キャリア教育・就労支援の推進 オ ICTを活用した教育の推進 カ 防災教育の推進 キ 「心のバリアフリー」(交流及び共同学習)の推進 ク 研究推進 ケ 特別支援教育のセンター的機能(地域支援) コ 保護者との連携 サ 福祉・労働等 関係機関との連携 シ 情報発信と理解促進 ス 安心安全な教育環境の整備	小学部	ア エ ク コ	・定期的な授業打ち合わせを行い、児童の実態に基づいた目標設定、手立てについて情報交換を行う。 ・指導内容や教材の工夫などチームで検討し、まとめる。	A A	3.8 3.50	・児童の実態に基づいた指導内容や教材の工夫がなされていたか。	A	3.80	・定期的な授業打ち合わせ会を開催し、児童の実態に基づいた目標設定や指導方法について情報交換を行うことができた。児童一人一人の課題や強みを共通理解し、教員間で授業におけるそれぞれの児童への指導方法について共通理解することができ指導の一貫性を確保できた。授業内容や成果をチームごとにその都度話し合い、次の課題に向けて改善してきた。 ・チームでの検討を通じて、教材の改善案を具体化し、次の授業に活用してきた。教員間で意見交換を重ね、児童の特性や興味関心に応じて学習効果を高めるための教材工夫を検討し、共通理解のもとで授業に反映させることができた。今後も継続して授業づくりに取り組んでいきたい。	教育方針「一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、丁寧な情報共有の上、自立と社会参加を見据えたキャリア形成に向け、きめ細かく適切な教育的支援を行う」をテーマに取組を報告し、学校関係者の意見を抜粋した。
2			中学部	ア エ ク コ	・月1回の授業打ち合わせを行い、授業の中で「できる」「わかる」を実感することで、生徒が安心して学校生活を送ることを目指す。 ・個々の実態に合わせた目標の設定や支援の手立てをグループで検討し、その経過や成果および課題をまとめる。	A A	3.75 3.64	・生徒の実態に合わせた目標の設定や支援がなされていたか。	A	3.80	・計画的に月1回の授業打ち合わせ会を行った。単元ごとに目標を定め丁寧に教材研究を進めることで、子どもたちが「できた」「わかった」などの成就感や達成感を味わいながら楽しんで学習できるような授業内容についての工夫をすることができた。学習したことを般化できる場を設定し、生きる力につなげることを今後も取り組んでいきたい。 ・打ち合わせの中で、グループ全体だけでなく個々の実態に合わせた目標設定や支援方法について共通理解を図りながら学習を進めた。定期的に打ち合わせを行うことで短い期間で評価を行い、軌道修正したり課題をまとめたりすることができた。	【各学部等の取組 教育活動の工夫】 日々の教育活動が丁寧に行われていることが評価される。 小学部段階からの自己選択や「自分で選ぶ」「伝える」といった体験、失敗も含めた学びを大切に丁寧な実践の継続が期待される。
3			高等部	ア エ オ ク コ ス	・教育活動を通して、個々の特性や気持ちを受けとめながら、自己の役割や成功体験を共有し、安心できる環境作りに取り組む。 ・学習支援アプリやICT教材を活用し、一人一人の学びを保障しながら自己表現力や他者への関心を育てる。 ・日々の教育活動における目標設定や振り返りを通して、自己の強みや課題に気づき、自分らしい進路の選択や将来像を描く力を育てる。	A A A	3.64 3.54 3.50	・生徒の気持ちを受けとめ学校が安心できる環境となっていたか。	A	3.70	各教科を通して、生徒の気持ちに寄り添い安心して話せる環境を整えることができた。今後も生徒の気持ちを受け止め、個々の生徒に応じた課題を設定し、成功体験を積み重ねるような工夫を継続していく。教育版マイクラフトやkeynoteの活用により、自己理解や自己表現を図ることができた。また、生徒同士の役割分担や協力にもつなげることができた。日々の教育活動における目標設定や振り返りを通して、現状把握や将来の進路について考える良い機会となった。今後はさらに、余暇の充実や課題克服に向けた支援にも力を入れていきたい。	教育活動の中で、意思表示の選択肢として「拒否」も含めた指導が行われていることは重要である。
4			在宅訪問学級	ア、イ、オ、サ、ス	・個別の指導計画等を元に、児童生徒の発達段階や障害の実態に応じた指導ができるようにする。 ・医療関係をはじめ関係諸機関及び家庭との連携を図り、協調して教育活動の充実に努める。	A A	3.75 3.72	・家庭や福祉・医療等関係者との連携を図り教育活動ができたか。	☆	☆	・個別の指導計画や支援計画を元に自立活動(身体の学習・コミュニケーション)を中心に学習に取り組んだ。身体の学習では、肩回りの大きな動きが表れるようになってきた。腕の上がる角度も90度程度から、120度程度まで上がるようになってきた。コミュニケーションでは、スイッチやアプリを連携して、自分から家族に呼び掛けたり、選択肢から選んで意思を伝えることができるようになった。 ・保護者を通して、訪問PTとの連携を図り、上半身を学習で、体幹や座位保持はPTで等様子を確認しながら、身体の学習に繋げることができた。また、入院リハビリテーションで保護者が学んだことを、実際に見せてもらうことで味見体験などの教育活動に活かすことができた。	公共交通機関を利用する力は、進路選択の幅を広げる重要な力であり、小学部段階からの積み重ねが大切であることが確認できる。

4		さくら訪問学級	ア、イ、オ、サ、ス	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が学習活動に主体的に参加し、生きる喜びを実感できるように、一人一人の成長と発達を促す。</li> <li>個別の指導計画等を元に、児童生徒の発達段階や障害の実態に応じた指導ができるようにする。</li> <li>医療関係をはじめ関係諸機関及び家庭との連携を図り、協調して教育活動の充実に努める。</li> </ul>	A	3.68	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた学習活動が展開され、児童生徒にとって充実した学びとなっていたか。</li> </ul>	A	3.80	<ul style="list-style-type: none"> <li>スイッチ等の情報機器を使うことで、自らの意思を表現し主体的・積極的に授業や行事に参加することができた。病棟で行う学習に関しても実際に現地に行ったような体験や実物に近い教材を工夫し、体験を通して児童生徒一人一人が持てる力を発揮できるようにした。</li> <li>児童生徒の実態把握が適切に行えるよう各病棟とのカンファレンスを行った。</li> <li>複数の教員で、個別の指導計画の検討を行い指導に生かせるようにした。</li> <li>定期的な学級通信の発行や授業・行事の取り組みなどの活動の様子を家庭や病棟に伝え、情報共有することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さくら訪問学級において、児童生徒が集中して取り組む時間の様子を丁寧にとらえ、例えばその集中持続時間に注目するなど、指導に生かしていくことが重要である。</li> <li>ひかりの森分教室における院内参観日は、院内多職種の方々に教育活動を理解する機会として有意義である。</li> </ul>
5		ひかりの森分教室	ア、サ、ス	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神疾患を有する児童生徒と接する教師として、常に受容的・肯定的・共感的な態度で関わる。</li> <li>医師、看護師、精神福祉士、心理士と常に情報交換を行い、治療の一貫としての学びを行う。</li> <li>退院後の学校生活での不安について、教師と相談する時間を設けたり、様々な振り返りやアセスメントシートを行ったりすることとおして、自己発見、自己理解を促す。</li> </ul>	A	3.59		A	3.59	<ul style="list-style-type: none"> <li>「受容的・肯定的・共感的な態度」を心掛け、授業や日常の関わりの中で児童生徒に寄り添う対応ができた。今後も、各専門職からの助言を生かしながら、児童生徒がより安心して学び、過ごせる環境づくりを継続していく。</li> <li>児童生徒一人ひとりの心理状態や特性について、各専門職と円滑に情報共有を行い、治療と連動した学びを提供することができた。得られた情報を基盤として、教員間の協議でも共通理解を深め、個々の実態に応じた柔軟な支援につなげることができた。</li> <li>授業や日常会話の中で児童生徒が自然に心情を表出する場面があり、教員が寄り添った関わりを行うことができた。また、教科担任制のもと、時間をかけて信頼関係を育みながら支援を進めている。今後は簡易アンケートや「ふりかえりタイム」を設け、個別に教育的ニーズを把握し、自立活動と連動させて自己理解を促す支援体制を整えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【地域とのつながりと安全教育】地域とのつながりを大切にしたい教育活動に加え、災害時を想定した取組についても教育活動の中に位置づけていくことが望まれる。</li> <li>【保護者との関係づくり】保護者アンケートの自由記述より子ども理解の丁寧さや不安に寄りそう姿勢への感謝の言葉が多くみられ、学校への信頼がうかがえる。</li> <li>【校内連携・情報共有】教職員アンケートにおいて「わからない」とする回答が一定数見られることから、各学びの場の取組や連携状況について校内での共有を、より進めることが望まれる。</li> </ul>
6		総務部	エ、カ、コ、シ、ス	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教育や合同火災・地震訓練の体験を通じて、「避難」や「危険から身を守る」方法を学び、引き渡し訓練を実施することで安心安全な教育の充実をはかる。</li> <li>児童生徒の実態に合わせて県警音楽隊による身近な音楽とリズムを楽しむ機会や、防災教育の事後学習ではICTを使った教材を用いて振り返りを行い定着を図る。</li> <li>参観日、懇談、学校行事、施設見学等の行事を行うことで、保護者相互の繋がりを深め、進路実現に向けた意見交換や情報共有できる場を設定する。</li> </ul>	A	3.76	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害等を想定し、避難訓練や引き渡し訓練を通して防災の意識を高めることができたか。</li> </ul>	A	3.36	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き渡し訓練、合同火災避難訓練、交通安全教育の体験を通して、「避難行動」では避難経路の確認、保護者、高等特別支援学校との連携を確認することができた。「危険から身を守る」については、事前・体験・事後学習を通して避難や、防災頭巾の着用など身を守るための行動を確認することができた。</li> <li>県警音楽隊による演奏を学校全体を通して参加された保護者ともども和やかに過ごすことができた。防災避難では「おはしもち」をICT機材の活用で映像からわかりやすく理解を深めることができた。</li> <li>様々な行事を通すことでお互いに知りたい情報を得ることや、悩みや相談したいことを共有することができ有意義に過ごせる場となった。また、参観日に、障害基礎年金学習会や福祉事業所説明会など日を合わせることで、多くの方が参加しやすくなった。今年度は県特P連の副会長校となり、様々な方々のご意見を聞ける機会となった。</li> <li>日々の連絡帳等を通した保護者とのやりとりも丁寧に取り組むことにより、一人一人のニーズを捉え取り組んだことやその評価を具体的に伝えることができた。</li> <li>児童生徒が操作したり調べたりする手段としてもICTの活用ができた。より具体的にその取り組みが個別の指導計画に反映できるよう今後も取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【校内連携・情報共有】教職員アンケートにおいて「わからない」とする回答が一定数見られることから、各学びの場の取組や連携状況について校内での共有を、より進めることが望まれる。</li> </ul>
7		教務部	ア、オ、コ、ス	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の教育的ニーズの実現のために、懇談などを通じて、保護者と共通理解しながら個別の指導計画を作り、評価を共有する。</li> <li>様々な場面においてICTの活用を踏まえ、教科等の目標を意識した個別の指導計画を作成する。</li> </ul>	A	3.66	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の教育的ニーズの実現のために、懇談などを通じて、保護者と共通理解しながら計画し、評価できたか。</li> </ul>	A	3.91		
8		情報部	ア、オ、シ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用して学習課題や成果を視覚的に共有するための学習環境を整える。</li> <li>本校の【ICTを活用した教育】を保護者に知ってもらうため、ICT機器の活用状況や具体的な取組を学部・学年通信、授業参観、懇談等で紹介する。</li> </ul>	A	3.72	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年通信や参観、懇談等を通じてICTを活用した教育実践が伝えられていたか。</li> </ul>	A	3.58	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、全教室の電子黒板が更新され、指導者用端末や学習用端末をミラーリングして映すことに加え、テレビ本体のみでインターネットのコンテンツを視聴したり、実物投影機能を使って生徒全員に課題等を共有したりできるようになった。ミラーリング時に音が途切れる問題については、アダプターを用意し、有線接続もできるようにする予定である。</li> <li>通信で授業におけるICT活用状況を保護者に紹介した。また、iPadを使って作成したチラシや名刺等を持ち帰らせたり、事後学習のまとめをアプリで作成して廊下に掲示したりした。参観日ではiPadで校外学習のメニュー決めの様子を直接見てもらった。</li> </ul>	
9		生徒指導部	ア、オ、キ、シ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校間交流において生徒指導部が主体となり計画をたてて企画運営を行い、事前学習・事後学習を含めて一体的な活動を行う。</li> <li>アンケート等を通じて事後の振り返りを行い、来年度の計画を立てる。</li> </ul>	A	3.72	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流及び共同学習を通してお子様の成長を実感することができたか。</li> </ul>	A	3.59	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校間交流において生徒指導部員が企画運営に関わることができた。事前学習は全て行うことができ、事後学習においても交流の振り返りや感謝の手紙を作成し相手校に送ることができた学部もあった。</li> <li>全ての学部学年・さくらが次年度への計画を立てて引き継ぐことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【交流及び共同学習】居住他校交流については、日常の授業の中で自然な形で進めていくことが期待される。</li> </ul>

10		保健部	ウ、ス	・定期的に安全点検を実施して、安心安全な環境を整え、安全な教育環境を整えられ ・安全な教育環境が整えられていたか。	A	3.53		A	3.8	毎月安全点検を実施した。安全点検を通じて短期的・長期的に修繕できる箇所を明確にすることができた。日々の清掃を通じて、用具を正しく安全に扱えるようになった。また、自分の役割を理解し、最後までやり遂げることで、達成感を体験することができた。	【地域とのつながり】卒業後の生活を見据え、就労面だけでなく余暇活動や地域とのつながりを育む視点を大切にすることも望まれる。	
11		支援研究部(支援)	ア、ケ、コ、サ、シ	・児童生徒一人ひとりのニーズに応じた適切な支援を長期的に一貫して行うために、本人や保護者の願いとアセスメントをもとにして目標を設定し、合理的配慮を含む支援の内容を具体的に計画する。	A	3.61	・児童生徒一人ひとりのニーズに応じた適切な支援を長期的に一貫して行われていたか。	A	3.68	本人や保護者の意向や将来の希望をもとに、実際にどのような支援が必要で可能であるかを考えて支援計画を作成し、本人や保護者との話し合いを通じて合意形成を図った。その計画をもとに、合理的配慮を含んだ適切な支援をし、必要に応じて医療や福祉機関と連携した。	【キャリア教育の系統性】キャリア教育が小学部・中学部・高等部を通して系統的に連動した取組として進められていることが理解できる。今後も発達段階に応じた継続的な指導の充実が期待される。	
		支援研究部(研究)	アイク	・児童生徒にとって「魅力ある学校づくり」と「わかりやすい授業」を工夫し実践するために、研修や研究を通して、児童生徒の変化に気づき、SOSを受け止める資質・能力の一層の向上を図る。 ・教職員の資質向上のために、研究チームで月1回テーマに沿った研究に取り組み、教職員同士や教職員と多職種の専門家等が連携・協議して教育活動	A	3.38	/			・授業等の実践や、児童生徒の理解に関する研修や研究を通して、児童生徒の変化に気づき、SOSを受け止める資質・能力が向上した。そのため、児童生徒がSOSを出しやすくなったり、児童生徒の実態に合う授業が増えたりした。 ・研究チームで月1回テーマに沿った研究に取り組み、教職員同士や多職種の専門家等と連携・協議して教育活動を行った。そのため、見立てや対応の方向性を見出すための研修・研究が勧められた。		
		進路指導部	エ、コ、サ、シ	・児童生徒の実態に応じたキャリア発達のために、普段の授業からキャリア教育、進路指導を推進する。 ・それぞれのニーズに応じた進路に関する情報提供をする。 ・普段の授業において、自分の力の発揮や次の課題の設定等の自己発見に取り組み、得意なことや好きなことなどの自己理解につなげるようにする。 ・教育活動全般のなかで児童生徒の実態に応じた方法で自己選択ができるように推進する。 ・基礎的な力を育成したうえで、校内実習・現場実習等の機会を活用して学びの成果を発揮できるようにする。	A	3.53		A	3.58	A	3.50	・年度当初に全職員に向けてのキャリア教育研修会を実施した。また、年間を通して学部学年に、進路指導部出前授業を行い、各学部学年のキャリア教育推進のため尽力した。 ・本年度は保護者との連携を強化し、懇談会時等に個別の進路相談会を実施し、保護者の進路に関するコンサルテーションや情報発信に尽力した。年間を通じて個別の進路相談会を実施し、ニーズに応じた情報提供につとめた。また、コミュニティスクールの取組を活用し、進路ガイダンスや進路相談会などを通して、外部の専門的な人材の協力を得ながら保護者のニーズに対応した研修会を実施した。 ・普段の授業や教育活動全体で、キャリア教育発達段階表やキャリア教育全体計画をもとに、自己選択、自己決定を含むキャリア教育を推進した。 ・進路指導の取組や校内実習、現場実習、職場見学などを通して自己選択、自己決定を促す取組をはじめ、自らのキャリア発達のために取り組んだ。
12		進路指導部	エ、コ、サ、シ	・それぞれのニーズに応じた進路に関する情報提供をする。 ・普段の授業において、自分の力の発揮や次の課題の設定等の自己発見に取り組み、得意なことや好きなことなどの自己理解につなげるようにする。 ・教育活動全般のなかで児童生徒の実態に応じた方法で自己選択ができるように推進する。 ・基礎的な力を育成したうえで、校内実習・現場実習等の機会を活用して学びの成果を発揮できるようにする。	A	3.53	・それぞれのニーズに応じた進路に関する情報が提供されていたか。	A	3.66	・年度当初に全職員に向けてのキャリア教育研修会を実施した。また、年間を通して学部学年に、進路指導部出前授業を行い、各学部学年のキャリア教育推進のため尽力した。 ・本年度は保護者との連携を強化し、懇談会時等に個別の進路相談会を実施し、保護者の進路に関するコンサルテーションや情報発信に尽力した。年間を通じて個別の進路相談会を実施し、ニーズに応じた情報提供につとめた。また、コミュニティスクールの取組を活用し、進路ガイダンスや進路相談会などを通して、外部の専門的な人材の協力を得ながら保護者のニーズに対応した研修会を実施した。 ・普段の授業や教育活動全体で、キャリア教育発達段階表やキャリア教育全体計画をもとに、自己選択、自己決定を含むキャリア教育を推進した。 ・進路指導の取組や校内実習、現場実習、職場見学などを通して自己選択、自己決定を促す取組をはじめ、自らのキャリア発達のために取り組んだ。	学校で実施している進路ガイダンスを契機として、保護者が市の相談窓口につながるなど、関係機関との連携が進んでいることが評価できる。また、保護者が来校する機会となり、保護者同士のつながりを生む場としても重要である。	
13		人権教育	キ、シ、ス	・学校行事や交流及び共同学習を通して、互いに認め合い協力することや達成感を体得する。 ・児童生徒の実態に応じ、インターネットのルールやマナー、気を付けるべきこと等について、個別又はグループ学習で取り組む。 ・現場実習や作業学習、体験的活動を通して働く喜び、自信、達成感を体得し、社会人になるための心得などを習得させる。	A	3.32	・人との関わりが広がり互いに認め合ったり協力したりする経験が得られていたか。	A	3.67	・各学校行事や各交流行事を通して多様な人々と様々な体験を行い、学習経験や生活経験を広げ、コミュニケーション能力を伸ばすことができた。 ・作業学習や校内実習等の体験活動を通して、社会で必要な基礎的・基本的な力を育成することができた。		
					☆	☆						
					A	3.44						